



議会だより

No.
18
平成22年7月



初開催

議会報告会

2

質疑あれこれ

4

町政

ここを問う

6



青山剛昌ふるさと館

▶参加者

- 国道9号線入り口に案内板が無い。道の駅のお客さんが必ず寄れるような工夫があれば。
- 何人入れば利益になるのか。損益分岐点は？

▶総務常任委員長

- 車の利用が90%以上。看板は、町も設置したいと聞いている。特に西からの来町者には分かりにくい。
- 損益分岐点は7万人と考える。今年のゴールデンウィークは入館者も減っているので、見通しはきびしい。

北栄町の農業

▶参加者

- 特色ある農業を町として進めるために計画等を策定し、北栄町農業の方向性を定めては。
- 農業に携わる人たちの仲間づくりを行政が支援すべき。議会からも協力して応援してほしい。

▶産業建設常任委員長

- 農業の基本計画を作る必要がある。議会と農業委員会も連携していく。



学力テスト結果公開

▶参加者

- 教育現場では情報が開示されない傾向にある。成績を町民に公開すべき。

▶教育民生常任委員長

- 学力テストの結果を公開するよう、教育委員会に働きかける。

財政見直し

▶参加者

- 北栄町の借金は？ 税収が3割なのに、なぜ予算が組めるのか？

▶総務常任委員長

- 251億円の借金がある。固定資産税を中心に4つの税収があり、あとは国からの交付税。税収を上げるには、人口増加、住民の所得を上げるしかない。また、町職員の人件費を計画的に減らす。

防犯街路灯補助

▶参加者

- 防犯街路灯の整備は、本来行政が整備すべきもの。各自治会に整備を委ねる現行方式では、集落間格差が出る可能性がある。

幼保一元化

▶参加者

- 幼保一元化について、「北条側だけ進めてもらっては困る」の発言に対して困惑している。なぜ、スムーズに推進できないのか理解に苦しむ。

▶教育民生常任委員長

- 幼保一元化の推進には全議員賛成である。しかし北条地区予定地の土地購入価格に抵抗がある。また大栄側では、この件と併せて4保育所を2保育所にするという話が出てきた。施設統合について住民の理解が必要。

議会報告会

▶参加者

- 今後、議会報告会は定期的開催するのか？

▶議長

- 最低年1回は開催。町政に反映させるため、各種団体や自治会にも出向いていきたい。

初開催

議会報告会

「議会基本条例」に基づいて、議会活動に関する情報公開を徹底し、町民に対する説明責任を果たすため、5月22日、23日に開催し、26人の参加がありました。

北栄町議会報告会



常任委員会の報告

総務

- ・(予算関係) 合併5周年記念式典事業
- ・消費者行政活性化事業
- ・青山剛昌ふるさと館
- ・(条例関係) 自治基本条例の一部改正
- ・(所管事項関係) 合併特例債の借り入れ状況と今後の推移

産業建設

- ・(予算関係) 太陽光発電システム設置
- ・6次産業化モデル促進事業
- ・農地・水・環境対策事業
- ・環境に優しいLED防犯灯
- ・(条例関係) 下水道料金の改定
- ・(所管事項関係) 農産物のブランド化と販路拡大の取り組み
- ・入札の予定価格
- ・北条川放水路
- ・不法投棄

教育民生

- ・(予算関係) 幼保一元化施設整備
- ・(所管事項関係) 学力テスト

ご意見・提言の中で、取り組んだ事項は、今後も議会だよりでお知らせします。

質疑あれこれ

平成22年度 一般会計補正予算

【地域整備貸付】
35,000千円

問 青亀恵一

高齢者介護施設の概要は。

答

2,300㎡に42戸を建設。大浴場・トイレ・広場を整備。今後3年間に30人の新規雇用を計画。



大栄一ゆびへる
高齢者専用住宅賃貸住宅新築工事

【幼年消防活動機材購入】
400千円

問 井上信一郎

保育所の太鼓購入が、消防機材の購入にあたるのか。



答

太鼓を使って、各種防災活動で保護者等に披露することで、子どもたちも楽しみながら防災思想の普及が図られる。

【就農条件整備補助】
8,514千円

問 津川俊仁

春先からの低温で、らっきょう・スイカ・梨等に影響が大である。実態調査を実施し、現状を把握して対策予算を組むべき。

答

農協・県と協議しながら調査・研究して対策を検討する。生産者・生産部からの情報はあがるが、実態調査は実施していない。具体的に被害が明らかになってきた段階で検討したい。



【畜産振興出資】
380千円

問 前田正雄

鳥取県畜産振興機構とは。負担割合は頭数に応じてか。



答

畜産推進に関する業務全般を行うっており、主に生産の振興、経営技術の指導、調査研究、また県が行う補助金の交付に係る事業を実施。家畜畜産物衛生指導協会が解散し移行したものの。

頭数割合でいくと負担増となるため、従前の金額を出資する。市町村の負担は500万円まで7.6%が本町分。

【農地・水・環境対策】
208千円

問 前田正雄

団体数の増加が要因か。

答

現在24団体、内5団体は田畑面積に変動が生じた。さらに営農活動に取り組み団体が一つ追加になった。



平成22年度 下水道事業補正予算

【臨時職員賃金】
1,440千円

問 飯田正征

下水道の接続調査に伴う臨時職員の賃金の支出は、行政のミスを税金で補うことにならないか。費用をかけないで、他の課長・職員の応援で対応すべき。

答

下水道料金の徴収漏れに伴う調査と、加入推進のため、未接続1,200戸を調査する。



賛成討論

井上信一郎

徴収漏れの原因は、下水道接続の届出書類の未提出にあり、すべてを業者任せにしているのが実態。町は届け出について住民に周知すると共に、業者への指導監督を徹底しなければならない。

3月議会で町長の謝罪と、早急な調査の実施、適正徴収を行う旨答弁があった。今後は、一日も早く調査に着手し、賦課漏れ防止と早期接続が重要。

賛否あり

反対討論

飯田正征

町民の大切な税金を、ミスの当事者である行政が何の努力もせず「調査に必要だから予算計上して使う」ことに疑問を感じる。自分たちのミスであることを自覚し、正常化するための努力をすべき。

全職員が担当課を応援し「お金をかけないで調査したが、なお経費が必要であるから予算を組む」、これが行政のとるべき責任ある行動ではないか。接続勧奨に至っては、予算を承認してもらったための付け足しである。

賛成議員

阪本山下
宮本清水
前田正青
長合川井上
津川本前田
奥田

反対議員

石丸
飯田

幼保一元化進む

3月議会での附帯決議に対し、執行部からその後の対応と今後の取り組みについて全員協議会で説明を受け、幼保一元化を進めることについて議会としておおむね同意しました。

(決議の内容については、議会だよりNo.17号をご覧ください)

一 附帯決議への対応

- ◆住民、保護者の合意が概ね得られた。
- ◆北条地区においては、3施設(東、中央、幼稚園)の統合を行い、平成24年度より幼保一元化を実施する。
- ◆大栄地区においては、大誠、由良保育所で幼保一元化を平成24年度より実施することとし、子育て支援センターの設置、定員増となる場合には必要な整備(部屋数、駐車場等)をする。
- ◆栄、大谷保育所は当面存続することとし、今後の在り方については少子化の動向等を踏まえながら、地域振興を含めて継続協議していく。
- ◆それぞれの施設への入所は、選択できることとする。
- ◆用地取得に当たっては、町民の理解が得られるよう特段の配慮をし、努力する。

二 今後の取り組み

- ◆幼保一元化に向けたカリキュラムなど運営内容を具体化する。
- ◆幼児教育の実施に向けた保育所職員研修の充実を図る。

どうする？ 県営住宅

答「払い下げに向け協議」



津川 俊仁

どうなるの？

津川 県の住宅政策変更に伴い、町内3ヶ所の県営住宅入居者の今後が心配される。特に栄第一団地については、平成19年に、県主導で払い下げに向けての説明会がなされた。今後、どのように対応されるのか。

町長 県営住宅の3団地に、22戸が入居。すべて、県の管理委託を受け町が管理している。栄第一団地では、入居者の意向はおおむね払い下げ希望ということである。払い下げに向けて、進入路、駐車場及び倉庫の取り扱いなど、県、入居者と協議を進める。



県営住宅栄第一団地（平成7年度完成）

町政ここを問う

津川俊仁議員・長谷川昭二議員

町政 ここを問う

6月定例会では8人の議員が15問の一般質問を行いました。



町内業者による下水道工事

町政ここを問う

井上信一郎議員

公共工事の入札

町内業者の保護・育成を

答「町内指名のみは高い」

答「落札率に大差はない」

井上

町報3月号に、町監査

結果報告が掲載された。この報告を見る限り、町内業者のみの指名ではあたたかも落札率が高いように受け取れる。監査委員は「町外業者を入れれば落札率は下がる」と判断している。町内業者で出来る工事は町内業者を指名すべき。

代表監査

マンホールポンプ

設置、プール解体等特殊工事が含まれているが、町外業者は町内業者より不利な条件でも落札率が低い。比率に対する判断は、町民がどう考えるかによる。

町長

特殊工事を除いた率の

つぶれちゃう



井上 信一郎

比較では、町内、町外業者とも大差はない。監査報告だけを掲載したことは、配慮が足りなかったと反省している。公平性の観点からある程度の業者数は必要であるが、指名業者の選定及び入札に関する運用規定は見直しを検討する。

国保税軽減へ

国が財政負担を

答「対応に努める」

長谷川

協会健保など比べ、

国保税の負担は異常にふくらみ、その負担に耐えきれず事実上の無保険者を生み出している。自治体も財政負担がふくらんでいる。その原因は、国から国保会計への財政負担が最高時に比べ半分以上と激減したことによる。国保税の軽減のため、国に元の財政負担割合に戻すよう求める、これまでにない取り組みが必要では。

町長

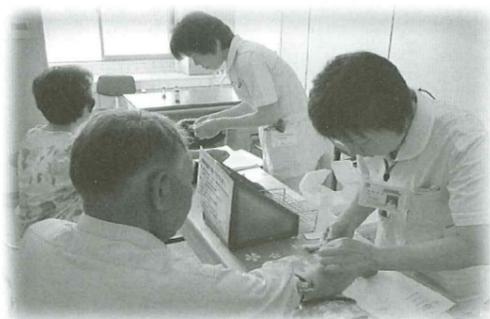
平成22年度の国保財政

は赤字と予測。昨年に続く引き上げは理解が得られにくいので、一般会計から補填する。国保税軽減のための財政基盤強化策の継続と定率負担引き上げなど、確実な財政支援を積極的に国に求めたい。

国の責任



長谷川 昭二



※セット検診

※セット検診
特定検診・基本検診、
胃がん検診、肺がん検診を併せた検診

ポリオワクチン接種

危機管理が甘い

答「確認作業を怠った」



阪本 和俊

阪本

行政を信頼している町民、保護者にとって、今回のポリオ生ワクチン接種に関する失態は大きな不信感を与えた。今回の事件は子どもへの命や医療の問題であり極めて重大。さらに、危機管理の甘さも浮彫りになった。町長は、行政の最高責任者であり、管理責任は重大である。町長報酬の大幅カットは考えられないか。

町長

接種間隔設定期間の誤りは、業務への慣れからくる確認作業の怠りなどによるミスが原因と分析し、チェック体制の未整備も明らか。今後の業務の中で、再発防止に万全を期し、二度とこのようなことを繰り返さないよう、チェック体制の強化

大失態！

を凶っていく。公表することで、責任の所在等を明らかにし、周知した。報酬カットは考えていない。



平成 22 年 3 月 12 日

北栄町長 松本昭夫

行政運営

どうして？ミスの連発

答「思い込みにより」



青亀 恵一

青亀

ポリオ予防接種において、不適切な時期に2回目の接種をするという行政ミスが発生した。

このようなミスが発生した原因、経緯とその対応、関係者の処分と今後の防止対策は。

ちゃんとやってるの？

町長

単純な接種日の間

隔算定誤りによるミス。思い込みにより、間違ったまま実施。接種の安全性を確認し、保護者に面談と文書でお詫びと説明をした。処分は、「北栄町職員の見解に係る審査委員会」での意見を参考に決定する。危機管理意識の徹底、前例踏襲主義の意識改革、事務処理のチェック体系及び成、並びに電算処理システムでのチェック機能の研究などにより再発防止に万全を期す。

ワクチンと接種通知ハガキ

苦情の対応

町民の立場に立て

答「対応に努める」



飯田 正征

町長

その事案については把握してはなかった。

町民からの要望・苦情等については、文書やホームページのほか電話や訪問で直接回答している。今後、さらに報告体制の強化を図り、より一層の町民目線での対応を職員に徹底していく。回答期限は、基本的に1週間以内としているが、可能な限り短縮し、相談者への疑問、不安の解消に努める。

速やかに！

飯田

町長は1月の窓口対応の苦情について把握しているか。課任せでなく、役場全体の問題としてとらえ、話し合っべきだ。要望苦情について町民の立場に立ち、速やかな対応に心がけているか、対応状況と今後の取組みは。



大栄庁舎玄関の意見箱と回答掲示板

町政のことを聞く

飯田正征議員

町政のことを聞く

阪本和俊議員・青亀恵一議員

どのように検討したのか

答「結果を周知している」

飯田

答弁に「検討する・機会あるごとに」といった発言が非常に多いが、その後どうなったか町民や議員に伝わっていない。どのように取り組まれたか伺う。

町長

議会で「検討する」と回答した案件については、早急に関係者で協議を行っており、改善できる事柄は実行に移している。

等でお知らせしている。行政運営について、その場逃れの答弁や回答をしている認識はなく、検討すべき事柄については十分協議し対応している。

とおり一辺倒の答弁では北栄町は決して良くならない。発言されたことに責任を持っていただきたい。

伝わっていない



飯田 正征



町長

町の対応は……

口蹄疫発生!

答「進入阻止に全力」

早めの対応



津川 俊仁

津川

宮崎において口蹄疫が発生し、大変な問題になっている。本町にも畜産農家がたくさんあり、このまま感染が広がれば大打撃を受ける。町はどのように対応するか。

町長

本県においては、4月30日に「家畜伝染病防疫対策本部」を立ち上げ、その初動として、畜産農家の緊急調査や消毒剤の緊急配布を実施した。町も、危機管理の徹底という観点から、県の担当課、近隣の市町、JA等の関係者と連絡を密にして、必要に応じて対応していく。



消石灰で消毒された牛舎入口



青亀 恵一

将来が不安

青亀

①特産農産物の選択
砂丘地の農産物の多くは、大幅に生産・販売が減っている。特産物の選定と支援の拡大、新たな農産物の開拓を検討する必要がある。

②特産農産物のブランド

品質の差別化をして、よりグレードを上げるブランド化を進めることも大切。また、北栄町の農産物と農業を宣伝することも必要。

③農業参入者の確保とその支援

就農勧誘活動の状況と相談がどのように就農に結びついているのか。北栄町の農業を売りにした宣伝活動の充実が必要。

④農業への企業参入

農地の確保や集約化などの農地環境を積極的に作り出すことが必要。

⑤農業の6次産業化

ねばりっこチップスの商品化は、地域ブランドでの生産から始めては。また、参入企業がない場合の商品化への取り組みも視野に入れた方針も必要。

町長



黒らっきよ (特許出願中) の生キャラメル

①現在の主力品目のブランドを維持しながら、「新たな農産物の開拓」ということも視野に入れる。後継品目として具体的な見通しはないが、関係機関とも連携して、必要な支援を行う。

②品質の差別化は、特に重要な要素。品種改良や栽培技術の確立、農産物の規格統一や選果・選別の徹底を関係機関の協力を得ながら取り組む。収穫体験の「ほくえい味覚めぐり」は、観光協会が広報活動を行い、集客への取組内容を充実させていく。

③新規就農・農業参入等相談窓口には、昨年28名(就農9名)、今年6月時点で14名(就農4名)から相談があり、就農に至っている。勧誘宣伝方法は、町報やHPとともにセミナーや情報誌等で幅広く広報していく。

④農地利用集積円滑化事業を積極的に活用していくことが有効。JAや土地改良区が主体となっており、より効果的に複数の農地所有者から一元的に委任を受け、農地の売却し、貸付け等を行う。

⑤黒らっきよの商品化は、キャラメル、ドレッシングの製造・販売がされている。ねばりっこチップスは、JA鳥取中央(大業支部女性会)が商品化に向けた体制づくりを進めている。

町の未来を左右する農業振興

砂丘地農業が厳しい

答「農業での町づくりは必要不可欠」



収穫を楽しむ観光客



レークサイド大栄でのグランドゴルフ

全町を挙げて

スポーツ推進に意欲を

答「スポーツクラブと連携」

石丸 機構改革により教育委員会には文化・スポーツ推進室が新設された。他町からみれば地域総合型スポーツクラブが先進的な活動を行っているように見えるだけで、以前に比べて町民スポーツが活発になったとは思えない。今後推進室はどのようにならなければならないのか。



石丸 美嗣

活発に！

教育委員長 地域総合型スポーツクラブは従来の行政主導型から「スポーツを通して、自己の健康増進は、住民主体の生涯スポーツ社会実現のため、関係競技団体との連携を深め、より一層広報活動に力を入れていく。

町長 3つの係を統合し、文化・スポーツ推進室として、5名体制で業務を推進していく。体育振興で他町に勝る結果が出ていないとの指摘だが、郡民体育大会では昨年も好成績を残している。今後はスポーツクラブに対し、会員数の増加、競技・生涯スポーツの普及推進を図るよう指導、啓発していく。

幼保一元化と保育所の統廃合

集約ではなく地域の実情を

答「栄・大谷は当面存続」



長谷川 昭二

地域の声を

町長 ①北条地区は、認可保育園（0才〜3才）と一体的施設の認可幼稚園（4才〜5才）で一貫した保育・教育を行う幼保連携型。大栄地区は、認可保育所がこれまでどおり（3才まで）預かり、

長谷川 ①幼保一元化をどのような類型の認定こども園で進めようとしているのか。②大栄地区の幼保一元化は、集約化ではなく地域の実情にあわせた保育・教育を実現するべきである。



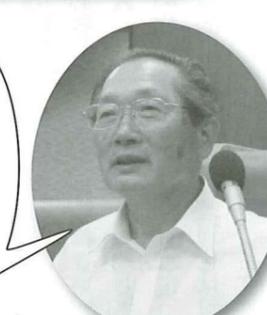
大谷公民館での地域座談会

4才以上は保育に欠けない子も受け入れ教育をする保育所型。②集約には、多くの反対があった。栄、大谷保育所は当面存続とし、引き続き住民の皆さんと協議検討する。

答「公開し、説明してきた」

説明不足！！

幼保一元化の実施と説明責任



阪本 和俊

不安だ！

阪本

北条地区と大栄地区とは、幼保一元化に対する意識の温度差が余りにも大きすぎると思うが、あえて強行するのか。実施にあたっての保育料の値上げ等、保護者や町民にとって一番関心のある事柄や運営面での説明も無い。財政的にも本当に大丈夫か。

町長

21年4月から内容や施設の用地選定について説明してきた。24年4月から北条地区1施設、大栄地区は大誠、由良の2施設でスタートしたい。栄、大谷保育所は当面存続させる。保育料は、現行を上回らないようにする。保育・教育の質の向上や保護者支援の充実に努め、開園時間は、7時から19時までの検討をしている。一時的な財政負担は当然生じるが、施設を集約すれば、管理運営費を7割程度に縮減できる。



待つてました給食時間（北条小学校）

町政ここを問う

浜本武代議員

全日（5日間）を

ごはん給食に

答「パン食も人気」

答「意見を聞き検討」

浜本 学校給食は、子どもの頃から望ましい食生活の習慣を身につけ、健やかな成長に大きな役割を担っている。

しかし現状は、保護者の共働きなどで朝食欠食やパン食も多く、午前中のエネルギー不足が心配されている。

毎日ごはんを

浜本 武代

教育委員長 本町の米飯給食は、平成20年に週3回から4回に増やし毎週火曜日はパンと麺類とし、子どもたちには楽しい多様性に富んだ献立を提供している。

給食センター統合のこの機会に、日本型食生活の良さを再認識し、地元食材での全日ごはん給食はできないか。

町長 米飯給食は食文化を伝える良い機会で、栄養バランスのとれた食生活を身につけるうえで意義があり、米の消費拡大と地産地消も大切。

週1回のパン給食は多様性に富んだ献立が提供され、子どもたちには人氣があり、今後については検討する。



ありがとう大栄給食センター

給食センターの民間委託

メリットはあるのか？

答「23年度は見送る」

答「食育は今後も推進」

なぜ急ぐ？



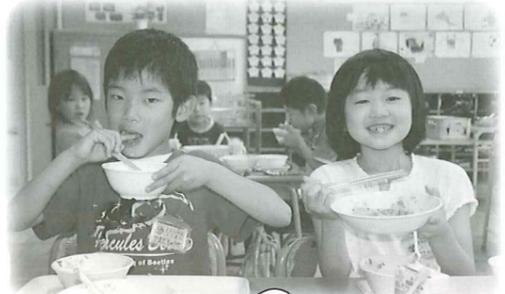
津川 俊仁

津川

平成23年度から給食センターの運営を一部民間委託する旨の説明がされた。現行案では、人件費のみの節減効果は小さく、民間委託するメリットより、安全安心に対するリスクの方が大きい。さらに、食育の推進という観点からも、適切ではない。

町長

民間の技術力を活用して、より一層安全・安心な給食が提供され、さらに食育の推進も、学校栄養職員と学校との連携を密にすれ



町政ここを問う

津川俊仁議員・長谷川昭二議員

給食センター調理部門

委託は不必要

答「食育の充実できる」

答「質は落ちない」

長谷川

①経費削減のメリットである人件費はどれだけ削減されるのか、今でも低い賃金をさらに引き下げることができる自治体がすべきなのか。

②地元産食材の利用率を高めるとされているが、大きさや形が不揃いで調理に手間がかかり、加工食品や輸入食材にならないか不安である。

安心・安全な食を



長谷川 昭二

町長

①委託すると人件費は、A社は399万7千円安く、B社は92万7千円高くなる。

②民間企業の専門的知識・技術を活かし、より安全・安心な給食提供と食育の充実が期待できる。献立の作成、食材の調達、地産地消の推進は

教育委員長

町が責任を持って実施するので、加工食品や輸入食材に頼ることはない。委託は、今後の運営状況を見ながら検討する。

②現在の水準を確保するよう調理指示書による指示と、その確認を学校給食センターが行うので、冷凍食品や加工品、輸入品の使用が増えるなど、給食の質が落ちることとはない。また、委託業者も専門的ノウハウを生かして衛生管理等、安全で安心な調理業務を第一に確保していただく。

議会だより 14号

日本一視察ラッシュ!!

議会だより

広報コンクール日本一を受賞し、全国各地からたくさんの視察が来られています。広報誌作成の流れや、紙面レイアウトについて情報交換すると共に、北栄町の特徴的な取り組みを学ばれています。中には、園庭の芝生化に熱心な議会も。

よう来て
 ぐしなつた

- 4月15日 福岡県福津市議会
- 4月21日 埼玉県戸田市議会
- 5月20日 山口県上関町議会
- 5月25日 香川県直島町議会
- 7月1日 新潟県聖籠町議会
- 7月15日 福岡県那珂川町議会



保育所園庭の芝生化に



プロジェクターによる研修

待つとるでー

- 8月3日 鳥取県智頭町議会
- 8月24日 愛知県大口町議会
- 10月8日 岡山県美咲町議会
- 10月26日 京都府与謝野町議会
- 11月12日 兵庫県播磨町議会
- 11月12日 徳島県勝浦町議会



編集後記

2年ぶりの広報委員。議会終了前後から、議事録を読み、テープ起こしをして、文章をまとめる作業に日夜奮闘しています。参議院選挙と重なり、とてもハードな日程でした。今回は、議会報告会の特集記事が入りました。初めての報告会でしたが、もっと大勢の皆さんと、意見交換が出来たら良かったと思っています。

津川 俊仁

表紙写真

・消防団操法大会にて
 「迫力ある一面」

5月16日撮影

- 【委員会のよこす】
 今号もプロジェクトによる編集を行い印刷会社に支払っていた制作費を抑えました。
- 編集・発行責任者
 議長 池田 捷昭
 委員長 長谷川 昭二
 副委員長 石丸 美嗣
 委員 青亀 恵一
 津川 俊仁
 井上 信一郎
 奥田 伸行